角田川

[謡本] 角田川 1冊 WA7- 044-001
国立国会図書館

序詞

是ハ武蔵國角田河乃渡ニ雪
ふる日ゝ舟を急き人ゝ渡
渡りやすきなれども其在所を去
子細きて大乗佛をとゝ乃ふ習
僧俗をきらはず人数をあつめ
りゝ事由皆ゝ仏乃ゝ人ゝ　第二　未も
ここゝここゝここゝここゝ
東方旅ゆくゝ　ゝゝゝゝゝゝ

四九詞

かゝ様よ以者い
東小云人乃ゝ程よ
作と所乃わ
こゝ
載ゝ
こゝ
見れ
必ゝ
ゝ
ゝ

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

ぞ非もあく面白う粗ひしを見
しよ　年　太郎ろ　ひはく　弩船を
ぶめてが好物　粗をまうしる
みて作　三十サ　実や人乃歌好き給ハ
闇よあく　松せ子を思ひ乃ぞ
まふ　ぶ　ハぞ　思ひまく　雪乃
ぞり人よ　十二　一元　一下　言傳て行恵を母ぶ

こ　一　一　一廿一
影ぬく　せ　ぞ　きく　や　ぶ　よ　ぶ　ハ　好
宮　乃　風　た　ふ　も　松　よ　言　ぶ
響　ひ　あ　星　上　元　元　元　ハ　こ
一　一　元　一　ま　よ　ぶ　り　恵　乃　家　乃
ま　よ　才　を　ぶ　て　や　ぶ　け　く　祝　す
サ　ま　ハ　ぶ　小　白　川　小　年　程　て　ぶ　め　家
ハ　ぶ　ハ　ぶ　ハ　き　家　ま　ひ　と　ち
如　ぶ　る　か　思　ハ　き　家　ま　ひ　と　ち
子　を　ど　高　人　よ　誘　く　祝　て　ど　恵　を

[謡本] 角田川 1冊 WA7- 044-004
国立国会図書館

受けそれ板乃関ゑ東乃国壹岐
あはぢとゑ小ぢわぬとゞよるの
こゝ心見なまほしくそわ
元ノ下ニ思ひ子ゑ陪を見てまよふあわ
丹
を里をりも歌心子を言まぬ心
や畑を　上三の　本ちわも歌うわな風
こゝ
一川世乃ぐゞゑうちをふ

やうこゝみ歌心
元ノ下ニ子ゑ四方の子見なゑ秋や影めゑ
元ノ下ニ
ちゝゑ乃そそや世ゞ武蔵国心
元ノ下ニ志も法を子ゑなうにあゑ角田川
元ノ下ニ
ゝ
も美よそわゝ　三ノ詞　なゝく
ゝ
ゝ
ゝ

下はしの人うへ　ハ　ハ　ハ

[謡本] 角田川 1冊 WA7- 044-007
国立国会図書館

上カル一クル

此渡をとゝゞゞゞ

あをやぎ
ぞ乃ひとを思ひ書
あけまにおもひ子ゝげ
とふ八月心乃書を思ひ
子ゝ我身めをも思ひ
忘れな我も
とりて見やこゝろぐ思ひ

子ハあけまちにぞやゝ
こゝこゝこゝこゝぬハうて
とゝゝ世ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

[謡本] 角田川 1冊 WA7- 044-009
国立国会図書館

こゝにいんの
ぢあくごうも業のあらはれかなしみ
とゝいはたゝもわれもなきうまれて
ゝゝゝこゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なきをなくなくをなくなくわたり
ゝゝこゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
もわれとゝゝのをゝゝひなくへ

詞
かなしやさゝ業の程はうつゝ
とゝて無よのわれらんぶつまるをを
大ゆの渡をゆゝしかまんゝて

詞
なんあ渡
なりめさゝ程ん
きうひの橋のうをゝに人ぶつ身を
あはまわゝはいはるゝゝうう

詞
さゝ母はあまいは大悲佛りゝ作
ゞ程よはゝゝて嘉分衆物佛ぶつは
ぶ無のむうひへ着ん人母程に
佛ゝゝゆをゝさふひるゝゝし

扨も去年三月十五日ばかりも
てゐよりお留てひゝあ業ひとすぢ
ちとわ業乃祖十二三りわかゝ
おそかるもすを買とけて奥へ
ちわひゝきおそかるおもかる
習ハぬ技乃はまきゆやゆふふ
遊例しでい一見もひゝ物す

とてゝこすぢ川屋よひきすはを
なんほう世ふ情なるもすゝ
りすゝこすぢおそかるもすを
まゝ階次よ技て商人ハ技へ
ゝたわてはゞ床習ふを人ゝ
ぼおそかるもすゝ姿を見はに
ゝあまゝくゝひ祖ふ技ゝ

[謡本] 角田川 1冊 WA7- 044-010
国立国会図書館

痛りるとてくんせぎの毒ぬるそ
もやはひくほだたよりるとり
よりるとびてこ小未新と見えし可
ぎ出とそはるいりなる人そと
ぎ乃必字をも國をもたてもて
くんくだ我ハ新小白川小若田ぬ
なるより一生ア一人乃作物子

よくはうぎよ小はをくれ毎計ま
うひ年ぬ数ひひ一をぎ高人に
かといくれてうやまみ米りひ
新乃ひとぬ中おあ一てうけまそも
米熟うくんくそぎ乃をよはを
こめてぎよ物を植て給り新と
ぎとみ一やりぬアぎ佛四五及

[謡本] 角田川 1冊 WA7- 044-011
国立国会図書館

[謡本] 角田川 1冊 WA7- 044-012
国立国会図書館

ゆきかへるにさてをきたてはい
だすんほうをゝかぶものをとりうう
見やさハ舩中ゆもゝ〳〵ゝ人も
ゝ座あるとゝゝゝゝゝ道ゝなゝゝゝ
ゝゝをゝゝゝゝゝゝゝ田なゝ
長物語ゝ舟ゝ者てゝゝとゝゝ
ゝあうわゝん　男　めゝ様をはゝ

ゝ所ゝ道ゝ仕はゝてゝ道ゝなゝゝ
ゝ仏をゝさゝふゝるゝゝゝ
　宇詞　ゝゝゝ女ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
やゝゝ屋ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あうわゝん　三詞　ゝゝゝ舩人ゝゝ

物語ハ此頃乃うたうた
去年三月ヶはの事とて仕
梅王丸の年ハ十二歳宝乃
母ハ梅王丸よ乃名字を
吉田となのりたる後ハ
歌よくも見ひけれ歌数よくも
見まして毎よくも見ぬ

よくよく思ひもよらぬ
なるゝ歌数よくも歌よくも見ぬ
こゝろ古よりなる程ぞおくかゝ
老くうの此物語の見めの子よく
きくへよくだなる是ハ夢うや
慈悲樣やこゝ言伝乃ひ事
よくハもとう所ぞとハ仮所乃

[謡本] 角田川 1冊 WA7- 044-013
国立国会図書館

[謡本] 角田川 1冊 WA7- 044-014
国立国会図書館

すとうち捨てくんばいはれぬ
子ゆへはうやあら痛りしやな
ミシテ
いとこいはさわせありなを新三に
きうぐぬ東よりわたるふぞい
はせ小かよ陸乃ぶりわ成乃
すよ桜もさきやを見ぬえす
とてぜ所を去て東乃果の乃
ごとくに去と迷てぜ草乃見も
ヒルニ下
我子ふぜ下ようきらめや
ヒルニ下
きうとてハ人くに去をぜして
ひさ一度ぜ世のいうをあよ
上ニ
乃勇さを好へや乃うとても
りひきへ業を世ふてぐく
ぜ所をうひかる幕末ぜくに

[謡本] 角田川 1冊 WA7- 044-015
国立国会図書館

元
この君神は面影忘れぬ
上カル
なほ人習ふ我ひの花さうわ
元
ご恋乃風をとうひまを長東
元
月は影不変乃雲はへ重くる
中詞
目乃前は浮世の形くそい
ほと情欲ないてもひかるす
だ〳〵三伽を情アメひてはせを
上カル
情ひ〳〵既月出河風もゞや
更ふる夜三伽乃所若な我を
先む〳〵水ぢ色やうこをかゝ
上カル
ゆ〳〵ぢ者 ハ我乃世をに
三伽をせ〳〵ヤさけして嘆ひま
中詞
ゝ〳〵法居〳〵わ〳〵てやふ
餘乃人形ほ見ぢまひともも

毎月毎月ひたまりをかうこ
ゝ去もよ物こひ物ふへ事ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

音をうへて　南無阿弥陀佛
南無阿弥陀佛
なむあみだぶつ
聲よくひびき塚の中へきこゆる
はよ　ゆきても友様よりてい
ぞ所迄お参をなんぞ
ぜひ一人ぢやく　と一聲うう

きこゆまほ　はまき南無阿弥陀佛
南無阿弥陀佛南無阿弥陀佛と
聲乃うちよりわづかろ　ふそく
はまきを　あきは孫子の　はく
そまりまたかと　たうひ
金子手をえかををみ消こゝ
まわゆけそぶよくおもひを

[謡本] 角田川 1冊 WA7- 044-017
国立国会図書館

まれかくれ面影もまぼろしに
ぞくるはこの君祝ひけるほどの
篠目ぬきもがのくとぬれ
陰たくて紅子ぬしの塚の
上ぬぎ花くもとりて
くわのあをちりぬ
さうあり祝なわ書き

国立国会図書館

[謡本] 角田川 1冊 WA7- 044-018

国立国会図書館

[謡本] 角田川 1冊 WA7- 044-019
国立国会図書館